

文化



伊藤塾塾長

伊藤
真さん

「1つの意味でこんな日本ではなかったはずだ」ということが感じられる映画です」と伊藤真さんは語ります。

「今のような平和ではない時代がかつてあり、平和は大変な命の犠牲の

もとに築かれたものだと いうこと。そして、今政治家もマスクを憲法を ないがしろにしているけれど、市民がたたかいを 進めているので、憲法が大切な道具となる時代があつたひづれです」

伊藤さんは、81年、東京 大学在学中に司法試験に 合格し、95年、憲法の理念 を実現できる法曹界の人 材を養成する伊藤塾を開 設。片桐監督の「日独裁 判官物語」(99年)が司法 制度改革への刺激を与えたことで映像の力を実感し、「私たちもできる」と思 をやらないければ」との思いで協力しました。

伊藤さんは、81年、東京 大学在学中に司法試験に 合格し、95年、憲法の理念 を実現できる法曹界の人 材を養成する伊藤塾を開 設。片桐監督の「日独裁 判官物語」(99年)が司法 制度改革への刺激を与えたことで映像の力を実感し、「私たちもできる」と思 をやらないければ」との思いで協力しました。

ピンチはチャンス

世界に先駆けて、戦争 放棄、戦力不保持を宣言 した憲法を理解するうえ で大切なのは「想像力を 発揮させねば」と。この前 の戦争、とても、時代の匂 たりがあります。憲法や9条について考えるのに、193

0年代から最近に至る日本 の歴史的事実を知るのは、大切なことです」憲法について年に1-3 回近く講演。若い世代 は、大変なことがあります。憲法は古くなつたと ころ敏感な反応があると 言います。「自分の考え でちゃんと投票できるお となになりたいとか素直 な感想が返ってくる。この 映画は、世代を超えた議論のきっかけにもなる

でしよう」

憲法は古くなつたと 公然と改憲を掲げる安倍 内閣。

「民主主義や人権、立憲 主義という憲法価値は50 も60年で浸透するような ものではありません。憲法を生活の中で生かし血 肉化していく過程こそ尊 い。(司法試験の)受験生 にもよく言うのですが、

「ピンチはチャンスだ」 の思いで一喜一憂せずに前 に向かっていきたいもの

「今があるのは、憲法を守るたたかいがあったから」ードキュメンタリー映画・シリーズ憲法と共に歩む第1篇「戦争をしない国 日本」の自主上映に静かな感動が広がっています。昨年11月に完成してから、2月までに100カ所以上で取り組まれてきました。片桐監督と、製作委員会の一員、伊藤塾塾長・法学館憲法研究所所長の伊藤真さんに聞きました。

見玉由紀恵記者



1946年11月3日に東京都主催で開かれた「日本国憲法公布記念祝賀都民大会」(映画「戦争をしない国 日本」から)

ドキュメンタリー映画

シリーズ憲法と共に歩む第1篇



「戦争をしない国 日本」=90分、38分(短縮版)の2種。上映センター☎03(3358)8169。
<http://www.filmk.enpo.net/>

「僕自身の自分史も重なっている」と片桐監督。学生時代から山本薩夫監督に師事し、数々のドキュメンタリーを送り出してきました。「憲法改憲を阻むために映画人の意地を見せたいのです」

「僕は、昭和一ヶタの最後の年(1934年)の生まれ。戦時中は疎開して、戦争の悲惨さは身にしみていますから、憲法を変えることが話題に

上がるとは、夢にも思わなかったですね」

「日米開戦の1941年からさかのぼる10年の日本の侵略の歴史が教えていたのかを検証しようと、映画人であるからには、映画で描こう、と思は立りました」

心がけたのは、「映像そのもので見せる」とこと

中国に戦火を拡大した日本軍の上海、重慶での残酷な爆撃。敗戦後の魔虚の町にあふれる浮浪児。新憲法公布を喜ぶ人々。戦犯容疑者の復活や日米安保条約を調印する吉田茂首相。国会を包囲し、車道を埋めた安保



映画監督

片桐直樹さん

とする思い。それが、映画を作るきっかけでした。「やるべきことをやつていながらこうなった」という反省です。

日本に戦火を拡大した

戦後、独立アーティストが生み出した数々の記録映画をもじり、歴史的事実を伝える映像を集めて編集。

アメリカの世界戦略に組み込まれる日本の戦後史の、憲法9条をめぐるせめぎあいが浮き彫りにされていきます。

戦後、独立アーティストが生み出した数々の記録映画をもじり、歴史的事実を伝える映像を集めて編集。

十五年戦争の時代から戦後60年にわたる激動の日本史を生き生きと伝えます。